

# ワクチン・新規モダリティ研究開発事業 中間評価結果報告書

## 1. 中間評価を実施した課題

課題名	迅速な中和抗体誘導を可能にする RNA ワクチンモダリティの研究開発
研究開発代表者	国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所 ワクチン開発研究センター 第三室 室長 松村 隆之
公募枠	感染症ワクチンへの応用が期待される新規モダリティの研究開発 (ワクチンへ応用するために必要な技術的課題を解決することを目指したものに限り)(異分野参入促進型)

## 2. 本課題の概要

本研究で開発している mRNA-脂質ナノ粒子ワクチンモダリティは、コロナワクチンの投与により国民の大多数が既に獲得している記憶ヘルパーT細胞を有効活用して、目的の抗原に対する中和抗体産生を促進させ、さらに脂質ナノ粒子の成分を最適化することで、副反応に繋がる炎症反応を軽減させたものである。1回の接種で、現行ワクチンよりも迅速に中和抗体産生を誘導可能かつ副反応を軽減化した mRNA-脂質ナノ粒子ワクチン(次世代 RNA ワクチン)の開発を目指している。

## 3. 評価結果

本課題は、初期マイルストーンとして設定された非臨床 POC(単回接種での迅速な血中中和抗体の誘導、感染防御効果等)が取得されたことから、第 I 相試験の完了を目指した研究開発期間の延長(延長後の研究開発期間として 5 年 5 箇月間)及び研究開発費の増額を認める。

以上